

国内外スクーリングと海外開発実践への単位認定制度

本研究科はフィールドワークを重視し、日本と海外2ヵ国にてスクーリングを実施しています。院生はこのうち2ヶ国を選択して履修します。「地域開発研究科目」として国内外スクーリングを位置づけ、日本、フィリピン、インドのそれぞれの開発現場において、歴史・文化・経済構造の異なる社会での実態把握能力、国際社会で必要な発表力と説得力の強化など、開発における総合能力の養成を行うため、現場作業(フィールドワーク)と、事例研究(ケーススタディ)、ディスカッションを重視した教育を行っています。

海外でのスクーリングにおいては、大学が指定する現地のスクーリング会場まで院生が各自で渡航し、各国の大学・研究機関等の教員・研究者を中心とした指導のもと、5日間にわたる

現地の開発現場でのフィールドワークと英語による講義を合宿形式で実施し単位認定を行います。また、スクーリングの一部として、本学同行教員による論文指導を実施します。

日本国内のスクーリングでは、注目すべき地域福祉やまちづくりの現場を訪れるフィールドワークを実施するとともに、講義・ワークショップや、指導教員ごとの研究指導を実施します。なお、一部の海外スクーリングでは通訳の便宜を図る場合があります。



●「地域開発研究科目」の紹介

- 1 以下は2023年度の開講内容です。
- 2 現地コーディネータは変更の可能性があります。
- 3 各地域開発研究科目の内容・会場については、当該国の状況等により、変更になる場合があります。
- 4 各スクーリング会場への渡航・滞在にかかわる経費についてはすべて自己負担となります。

1 日本

「日本及び東アジア地域開発研究」

日本・韓国・中国の開発学的特質を理論的・歴史的に考察する一方、特に日本国内の注目すべき地域づくり事例を訪れて現場の実践者からも学び、開発ワーカー・研究者としての視点や方法を深めます。さらに、研究の方法論や進め方のガイダンス講義、同級生や先輩の研究報告や経験談から学ぶ演習、リサーチ科目ごとの論文指導などがあります。

[担当教員] 小國和子、吉村輝彦(日本福祉大学大学院国際社会開発研究科教授)



2 フィリピン

「東南アジア地域開発研究」

フィリピン大学に集積している参加型開発やソーシャルワークの実習現場(都市スラムや貧困農村)の中から、政策、アプローチ、社会構造の相互関連について有意義な示唆を与える事例を選んで比較検討します。

[現地コーディネータ] フィリピン大学 College of Social Work and Community Development (CSWCD) 教員

